

ソニー(株)

製品種類: テレビ

機種名: XRJ-55A80J (有機ELテレビ)

販売年度: 2021年



評価項目(アセスメント評価項目)

番号	取組項目	説明
1	減量化・減容化	
2	再生資源・再生部品の使用	✓
3	包装	✓
4	製造段階における環境負荷低減	
5	輸送の容易化	
6	使用段階における省エネ・省資源等	✓
7	長期使用の促進	
8	収集・運搬の容易化	
9	再資源化等の可能性の向上	
10	手解体・分別処理の容易化	
11	破砕・選別処理の容易化	
12	環境保全性	
13	安全性	
14	情報の提供	
15	LCA (ライフサイクルアセスメント)	

製品アセスメントの概要

時代と共にニーズが高まりつづける、テレビ画面の大型化。それに伴い、資源消費や消費電力も増加し続けている。そんな中、資源消費量を抑えるために環境に配慮した資源を採用、視聴中の電力消費量の削減など、あらゆる場面において、サステナビリティの実現に徹底して取り組みをした製品開発をした。

改善の具体的内容

[] 中の数字は関連する評価項目の番号です。

1. 再生資源・再生部品の使用 [2]

【新規】

テレビで最も面積の大きい背面カバーにソニーが独自開発した再生プラスチックSORPLAS(※1)を採用。これにより、質の高い仕上がりを保ちつつバージンプラスチック使用量の削減をしている。

一般的な難燃再生プラスチックの再生材利用率は30%程度だが、背面カバーに使用したSORPLAS(ポリカーボネート)の再生材利用率は85%。背面カバーの質量は約2,940gだが、再生材を約2,499g使用しておりバージンプラスチック使用量はわずか約441g。

2. 包装 [3]

従来包装では製品を発泡スチロールで包みこむような包装形態が主流だが、長年にわたるシミュレーションの繰り返しや蓄積した物流のノウハウによって、強度を高めた包装材を上下のみに配置する形態に変更。十分な保護強度を実現しながら、包装材のプラスチック使用量を従来機種(※2 1,325g)に比べ約17%低減(1,090g)した。

3. 使用段階における省エネ・省資源等 [6]

TVに内蔵されたセンサーで周囲の明るさを検出し、画面の明るさを最適化するとともに、余分な消費電力を削減。

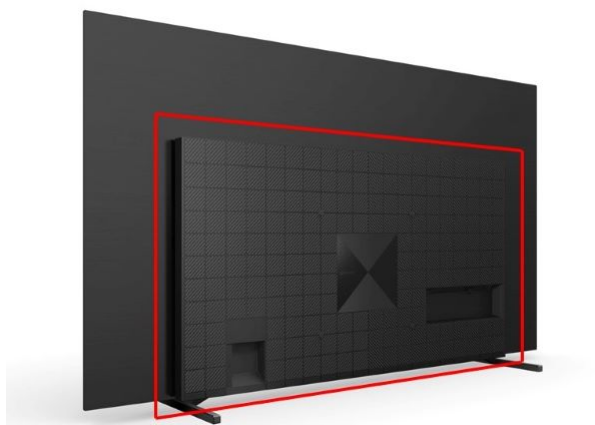
また、独自の信号処理により画面内のシーンごとに明るさを最適化することで、よりメリハリのあるリアルな映像を実現。環境やシーンに合わせた最適な映像を無駄のない電力消費にすることで年間消費電力量(※3)を従来機種(※2 206kWh/年)に比べて約11%削減(183kWh/年)した。

※1 SORPLAS (Sustainable Oriented Recycled Plastic)

※2 従来機種: KJ-55A8H (2020年)

※3 有機ELテレビの年間消費電力量は参考値

構造等の図



背面カバーにソニー独自の再生プラスチック(SORPLAS)を採用



[1]

[2]

環境に応じて画面の明るさを自動コントロール



[1] [2] [3]

映像のシーンに応じて画面内の明るさを自動コントロール